

予算の主な使われ方

主要事務事業の概要【新規事業】

有害鳥獣捕獲従事者確保事業

捕獲従事者の担い手を確保（地域おこし協力隊制度活用）し、野生鳥獣被害の予防につなげる。

飼い主のいない猫の不妊手術推進事業

不妊去勢手術に要する経費を助成し、動物愛護や公衆衛生の向上につなげる。

認定こども園改修事業

経年劣化による雨漏りを防止するため、排煙窓サッシの取替などを行う。

錦町公衆トイレ除却事業

平成2年度建設の錦町公衆トイレを除却する。

森林組合事務所整備補助事業

林業・林産業の拠点の構築を目指す森林組合の事務所整備に対し支援を行う。

林業総合センター除却事業

平成5年度建設の林業総合センターを除却する。

学校教材費等助成事業

子育て環境の充実を図るため、児童生徒の教材費などに係る経費の支援を行う。

小学校：教材費の1/2、

中学校：入学時ジャージ代(1着)の1/2

多目的宿泊交流施設改修事業

経年劣化に伴い、北棟屋根塗装、南棟食堂天井新設（現在は吹抜け）、厨房のエアコン設置などを行う。

下川商業高等学校卒業生就学資金助成事業

下川商業高等学校の魅力を高めるため、卒業して大学等に進学する際の教育ローンの利子相当額を支援する。



錦町公衆トイレ

スクールバス購入事業

経年劣化に伴うスクールバスの更新を行う。

中学校教員住宅整備事業

令和3年度に除却した教員住宅の跡地に民間事業者が提案・建設する住宅の買い取りを行い、教員住宅として管理を行う。(2LDK・1棟)

令和4年度各種会計予算については、予算審査特別委員会へ付託され、3月10日・11日・14日の3日間で審査を行いました。

予算審査の冒頭では、副町長より、「『予算編成は、国の地方財政計画、町の予算編成方針、第6期総合計画に掲げる「2030年における下川町のありたい姿の実現」と財政運営基準である「基礎的財政収支（プライマリーバランス）」の黒字化を目指し、「第6期総合計画の着実な推進」、「効率的で効果的な行政運営の推進」などを基本方針として、産業の振興、雇用の場の創出、人口減少対策、町民福祉の向上、教育環境の充実、安全で安心な暮らしの確保など、持続可能な財政運営とありたい姿の実現に向けたものとなっている。」

新型コロナウイルス感染症対策については、国のワクチン接種に係る費用などを計上しているが、感染症の状況などを注意深く見極めつつ、国からの臨時交付金などの活用を含め、時機を逸することなく補正予算で対応する。

予算執行に当たっては、各種補助金などの財源確保に努め、最終的な基金繰入金は可能な限り抑制するよう努力し、年度末により多くの基金を確保していきたい。また、財政状況が厳しさを増してきていることから、第8次行政改革大綱に基づき、行財政改革を推進し、政策と財政の両立を図ることにより、持続可能な財政運営を目指す。」との説明がありました。

その後、所管課ごとに推進施策、事業概要等の説明を受けながら審査を行い、最終日には理事者に対し総括質疑を行いました。

（予算審査特別委員会の内容については4～5ページに掲載しています。）